

晴天に恵まれ、田植え祭に309人

梅雨の初期には珍しく、晴天に恵まれた6月13日(土)、10回目の広町緑地・田植え祭が催され、スタッフもふくめ309人が参加する盛況でした。うち144人が高校生以下で、田んぼの周囲に子どもたちの歓声が響き続けました。参加者が300人を超えたのは、ことしが2回目です。

御所谷入り口広場には、定刻の9時前から親子連れが続々と詰めかけました。最も小ぶりの「つくし田んぼ」を囲むように畦に立って、スタッフが植え方を説明するのを聞いたあと、はだしになって5枚の田んぼに入り、一斉に植え始めました。



30センチ間隔で印をつけた「田植えメジャー」を、スタッフが畦に平行に移動させ、その印に合わせて、後退しながら植えて行きます。

3歳児も大人に負けず

私たちの田植えには、幼児も参加できます。自然と触れ合う機会を、早く体験してほしい、という願いからです。

実際、3歳児でも、親と並んで、見よう見ま

ねで植え方を覚えると、苗の根を深く、しっかり植えこみます。速さでも、大人に負けません。そういう幼児のがんばりが、どの田んぼでも見られました。

一番広い「ふじ田んぼ」は2アール近くあります。この田んぼには、「かまくら緑の探偵団」の小学生が中心になって、もち米のマンゲツモチの苗を植えました。他の「さくら田んぼ」「つくし田んぼ」「すみれ田んぼ」「新田んぼ」の計5アール近くには、大人と子供が一体になって、うるち米のサトジマンを植えました。

参加者が多いので、田んぼが狭く見えます。植え始めから1時間余りで、全田んぼに若緑色の苗が整然と並びました。

8月初めに収穫、10月に稲刈り

去年の収穫米を、味が落ちないように、粳のまま保存しています。そのうち45キロを加工して、30キロ余りの白米が残りしました。2台の大型炊飯器をフル稼働して炊き、一部は会員らが自宅で炊いて持参しました。

幼稚園にも保育園にも通わず、緑地で子どもたちに自由な時間を過ごさせている自主保育グループ「でんでんむし」の母親たちが、朝から来て、おにぎり700個近くを握ってくれました。

田んぼから上がり、御所川で泥を落とした参加者たち全員に、おにぎり2個ずつを渡しました。また、缶ビール96本、ノンアルコール24本、お茶のペットボトル100本を用意し、参加費300円を納めた大人に、希望によって提供しました。18歳以下は無料です。

15センチ足らずの苗ですが、8月初めには草丈80センチほどに生長して穂をつけます。10月中旬に刈り、2週間ほど日に当てて乾燥させ、11月中旬の収穫祭には新米のおにぎり、お餅を提供します。

田植え祭の 各年参加者(人)

年	参加数	うち
		18歳未満
06	64	12
07	143	56
08	184	81
09	260	123
10	358	182
11	212	107
12	170	70
13	243	121
14	280	148
15	309	144